

経済学研究科博士後期課程 研究指導計画

専攻・グループ等	経営意思決定専攻
研究目的・到達目標	科学的かつ理論的な根拠に裏打ちされた意思決定能力の育成を図り、トップマネジメントおよびそれを志す高度専門職業人の育成を目指す。本専攻修了により、博士（経営学）＝Doctor of Business Administration(DBA)の学位が取得できる。
研究指導方針・体制・方法	指導教員は、学生が所属する教育研究分野の研究指導を担当する教員（研究指導担当適格者）の教授のうち学生ごとに1人を定める。また、教授又は准教授のうち2人の副指導教員を定めるものとし、少なくともそのうち一人は、指導教員の属する教育研究分野以外の教員とする。ただし、副指導教員にあつては、教授会が認めるときは、研究指導担当適格者以外の教員（授業科目担当適格者）をもって充てることができる。指導教員1人、副指導教員2人による複数指導体制とする。「テーマサーベイ」「リサーチ演習」「特別演習」を通じて定期的な個別指導を行う。「テーマサーベイ」「特別演習」についてはそれぞれ報告会、中間報告会を設定する。また、学位論文提出資格として学会報告を義務付けている。社会人を対象としているため、院生の利便性を考慮して土曜日に開講する。
研究指導内容	専攻目標に照らして、意思決定に係わる経済・経営諸科学のプラクティカルな研究が重要となる。そこで、研究テーマについての先行研究の探索に加えて、参考文献、参考資料、データなどのフィールドワークを含む研究指導を行う。
年間研究指導計画	<ol style="list-style-type: none"> (1) トップマネジメント育成にかなった研究計画・指導計画の策定 (2) トップマネジメントに必要な意思決定力を育成するための授業履修計画の策定 (3) 「テーマサーベイ」「特別演習」についての報告会、中間報告会の設定 (4) 学位論文提出資格として学会報告を義務付け (5) 参考論文の学術誌への掲載の義務付け (6) フィールドワークを中心とした調査研究を実施するための「関連領域アドバイザー」の配置など
学位論文の指導体制・作成プロセス	<p>第1学年の演習「テーマサーベイ」においてリサーチテーマのサーベイを行い、第2学年の演習「リサーチ演習」においてテーマについてのフィールドワークを中心とした調査研究を実施する。このリサーチの実施に際しては、必要に応じてリサーチテーマに沿った分野・領域で実務経験のあるアドバイザー（「関連領域アドバイザー」）を研究科内外から起用することがある。</p> <p>第3学年以降の演習「特別演習」において「テーマサーベイ」「リサーチ演習」の成果に基づきながらテーマの掘り下げを行い、博士論文を仕上げる。</p>
学位論文審査体制・審査方法・評価基準	主査1人、副査2人以上を選任して審査に当たる。第3学年提出の「予備論文」について学位申請資格、学位論文としての形式などの適合性の審査を行い、合格した者に学位論文提出資格を与える。最終試験においては、博士（経営学）を授与するに十分であるかどうかを評価基準とする。
最終試験の評価方法・評価基準	最終試験は、審査委員3人以上が論文を中心として、これに関連ある科目について、口頭または筆答により行なう。